

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200120
法 人 名	KEITOKU GROUP株式会社
事 業 所 名	グループホーム かいもん
所 在 地	鹿児島県指宿市開聞十町1330番地1 (電 話) 0993-27-2110
自己評価作成日	令和3年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ご本人様の残存能力を活かした作業を、本人の役割として参加して頂く事を基本としており、家庭的な雰囲気を損なわないような環境つくりを心掛けている。
- 基本理念唱和にて1日の生活が始まり、利用者様が孤立する事がないよう常にスタッフが声掛けをしており、利用者様が自由に過ごして頂けるよう努めている。
- コロナ禍でも、利用者様とご家族の関係を大切にしており、制限はあるが面会や電話連絡にて喜びを少しでも感じて頂けるよう両者の橋渡しをして安心して頂けている。
- 少しでも、利用者様やご家族様のお役に立てたらという思いで、スタッフ一同、試行錯誤を重ねながら支援をしている。

- ご本人様の残存能力を活かした作業を、本人の役割として参加して頂く

- 事業所の1階フロアから中庭に出ると、花見・紅葉など季節を感じることができる。天候に合わせ利用者と職員の散歩・散策コースになっている。日光浴・外気浴を楽しみながら会話し、自然豊かな地で開聞岳を仰ぎ、充実した日々の支援をしている。
- コロナ禍であり、行事、外出、地域交流、面会等活動支援が自粛となっている。利用者の身体機能維持や生活状況の低下を防ぐために、室内でのレクリエーションや洗濯たたみ・新聞を利用したゴミ箱作り等利用者ができることを見つけ、主体的に取り組める働きかけをしている。
- 面会は、窓越しで実施していたが、目や耳の障害がある場合は、対話や触れ合いができず、多くの家族が対面式の面会を希望している。今後、対面式面会や外出支援を検討する方針である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員で意見を出し合い、理念を作り上げ、毎朝、理念の唱和を行っている。理念を念頭に入れ利用者様への対応を行うようにしている。	理念は開設当初職員で作成している。申し送り時に唱和し、本日の話し合いをしている。理念をホールや事務所に掲示し、共有し支援している。年度末に全員で振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過ということで、地域行事への参加はほぼ中止している状態である。中学校の職場体験も実施できていない。	年間行事・地域交流・面会等を自粛している。唯一受診時は楽しみな外出になっている。地域情報は、広報で把握している。地域住民からの野菜の差し入れ等があり、地域との交流は大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	面会に来られた家族や、電話連絡応対時において、認知症の理解を深め、支援の方法を知って頂いているが、地域に向けてとなるとできてはいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、書面会議にて開催。書面を持参した際、事業所での取り組み等を報告し、そこで意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に書面会議をしている。ヒヤリハットや利用者の状況や活動状況を報告している。家族には、メールや手紙等で報告し、意見や要望はサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に市町村担当者、区長へ書類を持参し意見交換を行い、密に連携を図れるよう協力体制を築いている。	市担当者とは、窓口に出向いて報告や相談をして意見を得ている。事業所の実情や取組を伝え連携を図り、協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会や社内研修にて、学ぶ機会を設け、また実践に活かすよう努めている。	委員会は3ヶ月毎に実施し、研修は年に2回実施している。毎月テーマ別に勉強会を開き職員の資質向上に取組んでいる。センサーマットの利用者には、靴に鈴をつける工夫をし、迅速に対応している。コロナ禍であり、外出できないことを説明し、気分転換等で職員と共に中庭で過ごす時がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や社内研修にて、虐待について誤った覚え方をしていないか、内容を見直し知識の統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会にて学ぶ機会を設け、スタッフの理解が深まるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、利用契約、同意書等、書面に基づき十分な説明を行っている。また、ご家族と話した内容はスタッフとも情報共有を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会がある方は、その都度、現状報告を行っており、遠方のご家族には電話やメールにて報告し、意見や要望をお聞きしている。	家族との交流は、メール・電話・手紙等で利用者や事業所状況を報告している。利用者の写真を添付しメール交換もしている。オンライン面会も実施している。家族の要望の多くは、早く面会制限を解除してほしいとのことで、今後検討する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議にて職員の意見や提案、要望等を聞く場を設けている。また個人で話を聞いたりし、業務やケアに反映している。	職員の定着率が高く、ホーム長・管理者に気軽に相談や意見を言える関係がある。居室で放尿や失敗がある利用者の居室をトイレ近くに移動する提案等、常に理念に振り返る支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者自ら率先して現場に入っている事もあり、職員の努力や勤務状況等、直接目にしている事もあり、把握し対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	毎月、各スタッフが月ごとの勉強内容に基づき資料を作成、内容報告も職員会議内にて実施しケアの向上に努めている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	GH協議会でのリモート研修や、管理者研修で少しづつだが、交流を図れるようになってきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	本人、ご家族と話し合う機会を設け、本人の不安や要望を聞き、GHでの生活を安心して頂けるよう努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	相談や見学時には、困っていることや不安・要望を伺い、思いを受け止め、質問があれば納得がいくよう説明をしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人様、家族様の意向をしっかりと把握しサービス導入段階で安心してサービスを受けるよう努めている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶという姿勢で生活し、共に支え合う関係が築かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話等で本人様の状態を伝えながら、家族の意思を伺っている。職員が全てを支援するのではなく、家族様にできる事はして頂き、共に支えていく関係を築いている。			
20 8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍という事もあり、対面での面会は困難だが、馴染みの方達と関係が途切れない様、窓越しでの面会を取り入れており、また遠方者とは電話で話す機会も設けている。	馴染みの人や場とのつながりは自粛している。利用者の意向は家族に会いたいと聞き、窓越し面会も多くなっている。家族や友人等、馴染みの方とは通院で会ったり、窓越しの面会や電話で話す等、関係が途切れないように支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話したり、職員が間に入り話しをしている。皆で協力し合ったり、できない事を支え合えるような支援に努めている。			
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相手に合わし、連絡・相談があれば支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>生活暦を考慮し、状態や表情から思いや意向を汲み取り本人らしさが出るよう支援している。</p>	<p>利用者がフロアでゆっくりしている時に、職員も一緒に過ごし、ゆっくりと話ができる様にしている。困難な場合は、表情や今までの様子から判断し支援している。表情で思いや意向をくみ取ることが困難になっている場合は、家族の情報や今までの職員の関わりの中で話し合い支援している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人やご家族から生活歴を伺い、情報収集したうえで把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化も気付けるよう注意して、情報共有している。状況変化に応じた対応が出来るように努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>その都度、話し合いを行ない、必要時は直ぐに見直しを実施している。</p>	<p>本人や家族の希望を事前に把握し、担当者会議で主治医の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、状況変化の時はすぐに見直しして現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	日々の様子は介護記録に記入し、ケアする中で気づいたことはケア会議にて話し合い、毎日の支援に活かし介護計画の変更、見直しに繋げている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	要望に応じて、医療機関への通院等、柔軟な支援を行なっている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	お友達やご家族の面会などから充実した暮らしが継続できるよう努めている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	契約時、本人や家族の意向を踏まえ、希望の医療機関を継続したり、夜間帯に対応できる医療機関を勧めたりと、柔軟に対応している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は基本的に家族となっているが、必要時は職員が同行している。受診結果は、家族に報告している。薬は事業所が管理し誤薬防止に努めている。24時間医療連携体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとられた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、事前に看護師に相談している事もあり、スムーズに対応して頂いている。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には介護サマリーを提出し、環境の変化にも不安がなく安心して治療に専念できるよう努めている。			
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいく	重度化や終末期について、必要になった場合は、主治医・ご家族とカンファレンスを実施し対応していく。必要に応じ他施設の紹介や、申し込みについても提案、支援している	重度化や終末期について説明している。重度化の場合は、本人や家族に医師が説明し、希望する医療施設や介護施設を紹介している。看取りについては、しない方針であるが、家族の希望で実施した事例がある。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の応急処置等、緊急時対応マニュアルに沿って対応できる様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、年に2回避難訓練や防災教育を実施。避難訓練においては、コロナ禍の状況次第だが、落ち着いている時は消防署職員に立ち会って頂き指導を受けている。	年に2回避難訓練を実施し、コロナ禍であり、消防署立ち合い訓練は、1回実施している。自主訓練は避難訓練経過や通報方法等を防災報告書に作成している。避難経路を掲示しスムーズに行動している。利用者・職員の安否確認方法も周知している。昼間は併設の施設職員の協力を得ているが、夜間体制の協力は課題としている。備蓄も食料・調味料・介護用品など準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>守秘義務や個人情報の取り扱いについて、勉強会に参加し理解を深め、人格を尊重した声かけや呼び方に努めている。</p>	<p>権利擁護・身体拘束・虐待等についての研修や勉強会を実施している。排泄・入浴はプライバシー確保や羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。呼名はさんで統一し、利用者に応じた声掛けや対応をしている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者が選択できる声かけや、意思表示が難しい方には、表情や仕草から汲み取るようにしている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々のペースを大切にしながら支援している。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>定期的に美容師に訪問している。また、季節や場所に適した衣類等のアドバイスを行なっている。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の誕生日には、ちらし寿司や茶碗蒸し、天ぷら等、誕生日メニューを取り入れている。</p>	<p>ホーム長が献立を作成し、調理は職員が担当している。食事前は全員で口腔体操を実施し、誤嚥等の防止に努めている。利用者に合わせた食事形態を提供している。誕生日食、行事食を準備し食事に変化を持たせている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の状態に合わせた、食事形態を提供し、食事の摂取量を常に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個々の状態に応じた介助にて口腔ケアを行なっている。義歯の方は、毎日、義歯消毒も行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンを把握し対応している。訴えがない方にも時間を見て声かけを行なっている。	自然排泄の取り組みやトイレ排泄の自立を支援している。失敗時の声掛け対応に配慮し気持ちよく過ごせる様にしている。失禁時はシャワー・足浴を行っている。夜間はトイレ排泄やポータブルトイレを使用し、転倒に気をつけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便状況を把握し、主治医・看護師と連携を取り合い、個々にあった排便コントロールを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決めているが、本人の希望や体調によって、時間や曜日を変更し臨機応変に対応している。	入浴は週に3回、午前に支援している。同性介護を基本にして、浴槽に浸かれない利用者にはシャワー浴をしている。個浴であり、プライバシーを確保している。入浴拒否の場合は、タイミングを見て支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違うので、習慣に合わせて休んで頂いている。休息も個々に合わせた時間の調整やカーテンで明るさの調整を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をいつでも確認できる様に各ユニットで保管している。薬事変更等ある場合、往診ノートに記入し全体へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業やレクを提供している。タオル畳や、新聞折り、箱作り等、終了後にはお礼を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ過であり通院以外の外出は中止しているが、本来は、ご家族に外出の協力を依頼し、できるだけ一人一人の希望に沿った外出支援を行なっている。	中庭につながるサンデッキで過ごしたり中庭を散策して楽しんでいる。日常的に外出できない日々が続き、心身の機能低下やストレスを溜めない過ごし方の工夫に努めている。受診は馴染みの医療職員や地元住民と交流できるので唯一の楽しみな外出となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多い為、ご家族管理がほとんどである。必要な物がある時は、購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時には、電話をかける様にしており、かかってきた電話については、本人と話をしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目の前には、ご利用者に馴染みある雄大な開聞岳があり、テラスや中庭にて、いつでも眺めることができ、桜や紅葉と季節を感じる事が出来る。	共用の空間は広く天窓があり明るい雰囲気がある。たたみ部屋もある。椅子・テーブル・ソファ・テレビを設置している。利用者は季節感のある作品を作り壁画として楽しんでいる。雄大な開聞岳や中庭の桜や紅葉を眺めることができる。音楽番組も好まれている。座席は個々に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	入居者の関係性を考慮して席を決めている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	馴染みの調度品は自由に持ち込み可能である事を事前にお伝えして、在宅時の生活により近づける様に努めている。居室には写真やぬり絵の完成品等を飾っている。	居室は天窓がついている。ベッド・タンス・エアコン・リースの布団を設置している。利用者はテレビ・位牌・毛布・時計・家族写真等を持ち込み、ぬり絵・カレンダーを飾っている。清潔に整理整頓され居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している</p>	居室が分かる様にネームプレートを設置している。また、自立した生活が送れる様、家具の配置や個人の車イスの置き場所にも配慮している。		

V アウトカム項目

			1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		2 数日に 1 回程度ある
			3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
			2 少しづつ増えている
		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない